

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		越野 泰成	所 属		法文学部 総合社会システム学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	1. WebClassなどを使用して例年通り、予習のためのレジュメ配布や復習のためのレポートの提出などを実施して、さらなる単位の実質化を行う。 2. 昨年度の授業アンケートの指摘事項をもとに、授業の改善を心がける。		0.25	1. Web Classを用いて予習のためのレジュメ配布や復習のためのレポートの提出などを例年通り実施して、さらなる単位の実質化を行った。 2. 昨年度の授業アンケートの指摘事項をもとに、教材の改善等を行った。 3. 上記の取組を行い(FD活動)、教育の質の向上につとめた。
研究	0.25	1. 現在進行中の論文の完成させ、論文の投稿・採用を目指す。 2. 科研費応募をはじめ、外部資金獲得に向けた取組を行う。 3. 学内の戦略的研究推進経費による研究に参加し、研究遂行に協力する。		0.20	1. 現在、数本の論文を作成中であり、次年度中には論文の投稿・採用を目指す。 2. 科研費応募を行った。 3. 学内の戦略的研究推進経費による研究に参加し、研究遂行に協力した。
社会 貢献	0.10	1. 経済法研究会の会員として研究会に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献する。 2. 政策金融評価業務検討委員会委員として、会議に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献する。		0.10	1. 経済法研究会の研究会には、日程の関係で参加できなかった。 2. 政策金融評価業務検討委員会委員として、会議に参加し、意見の交換等を通し、評価書作成に貢献した。
管理 運営	0.35	1. 大学評価センター長として、評価担当副学長を補佐し、全学的な評価業務を遂行する。 2. 大学評価センター長として、年度計画実行を推進する。 3. IR推進室の一員として、全学的なIR活動を遂行する。		0.35	1. 大学評価センター長として、評価担当副学長を補佐し、全学的な評価業務を遂行に努めた。 2. 大学評価センター長として、年度計画実行の推進に努めた。 3. IR推進室副室長として、全学的なIR活動の遂行に努めた。
進路 指導	0.05	1. 経済学演習を通し、ゼミ生の履修指導、就職指導を行う。		0.10	1. 経済学演習を通し、ゼミ生の履修指導、就職指導を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩橋 培樹	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.50	担当講義は以下の通り。経済数学(夜間)、マクロ経済学、経済学演習 I・II、マクロ経済学特論(大学院)、囲碁の世界(共通教育)、労働経済学 I。体系的で分かりやすい講義に努め、学生が知識を習得するのみならず、学ぶ意欲を高められるような内容に努める。			0.50	初回講義に、毎回の講義のテーマならびにキーワードを記した予定表を配布し、そのカリキュラムに従う形で講義を進めることができた。受講人数、出席率ともに高いもので、一定水準以上の講義を達成できたものと思う。 自己評価:A		
研究	0.50	経済産業研究所(RIETI)の地域研究プロジェクトに加わる形で、以下のテーマに関して研究に従事する。 「沖縄県の国際貨物ハブ化構想に関する経済分析」 今年度中にその成果を論文として公刊する。			0.50	RIETIの定例研究会に参加しながら、共同研究者とともに研究、調査を進めた。年度内に研究成果を論文にまとめ、応用地域学会において報告を行った。(論文タイトル「アジアへの輸送玄関 那覇ハブ空港の可能性」) 自己評価:A		
社会貢献	0.00				0.00			
管理運営	0.00				0.00			
進路指導	0.00				0.00			
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉田 勝弘	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	必修科目は特に学生のやる気を引き出して懇切丁寧に教育したい。		0.30	出来る限り学生のやる気を引きだし懇切丁寧に教育した。			
研究	0.50	現在進行中の3本の論文を仕上げる。		0.50	2本仕上げて現在はまだ精査中。査読付きジャーナルに投稿予定。			
社会貢献	0.00			0.00				
管理運営	0.10	幾つかの委員会を勤め上げる。		0.10	委員会に毎回出席した。			
進路指導	0.10	就職、そして院志望の学生に適切な指導をする。		0.10	ゼミの学生の各々の進路に合わせて出来る限りの指導をした。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		瀬口 浩一	所 属	法文学部 総合社会システム学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	ゼミでは、県外大学とのディベート大会、学内合同ゼミ、共同研究や個人の卒業論文研究を通じて、広い視野から考える力と分析力、忍耐力、協調性が身につくよう指導にあたる。大学・大学院の講義でも、広い視野から柔軟に考える大切さを伝え、「考える力」が向上するよう指導にあたる。		0.25	ゼミ教育では、県外5大学6ゼミとのディベート大会、研究本発行、卒業論文中間・最終報告会開催を通じ、目標設定通り、ゼミ生の力を伸ばすことができた。授業評価では内容に関心が持てたとの回答も多く、大学院でも、財政問題を現実的に理解できたとの声が聞け、目標を実現できたと考えている。	
研究	0.25	公共部門の効率性に資する研究と共に、法文学部や国際沖縄研究所の研究者と連携した研究プロジェクトに参加し、今後の外部資金獲得を視野に島嶼地域の財政問題に関する研究に当たる。外部の研究者とも連携し、研究会などに参加しながら、研究成果を論文として公表する。		0.20	法文学部や国際沖縄研究所の研究者と連携した2つの研究プロジェクトに参加した。研究資金を得て、島嶼地域の地理的特性に着目した地方財政研究を進めることができ、ワークショップなどでの報告機会にも恵まれた。その研究成果は論文として公表しており、目標を達成できたと考えている。	
社会貢献	0.20	財政の専門家として務める行政などの各種委員会委員の職務や講演、テレビや新聞等からの取材対応を通して、研究成果を社会へ還元できるように取り組む。地域への貢献活動として、市民への公開授業や高大連携授業も実施し、専門的な視点や知識が養われるよう取り組んでいく。		0.20	財政学の専門家として、国や自治体の委員会(委員又は委員長)、新聞社やテレビ局の取材・出演など専門的な助言・発言の機会を得て、研究を社会に還元する機会にも恵まれた。市民への公開授業などを通じて地域社会と接点を持って、積極的な社会貢献ができたと考えている。	
管理運営	0.20	新たな学内組織への参画をはじめ、全学の各種委員会委員を担当する。新たな学内組織が軌道に乗るよう学外にも足を運び、取り組む予定である。高校説明会などにも力を入れる。専攻・領域ではインターンシップ実施など3年次指導教員の業務や大学院の新コース開設などにも励みたい。		0.25	全学では複数の委員会等委員を担当し、入試説明会の実施、プロジェクト及び全学組織への参画、評価業務、沖縄地域インターンシップ関連委員などに携わった。学部でも入試業務等に取り組み、専攻・領域ではインターンシップの実施や大学院新コースの開設などにも励み、目標を達成できたと考えている。	
進路指導	0.10	就職活動支援の知識や経験を活かし、開始前から就職活動支援・指導を行う。全国的に通用する人材育成を日頃のゼミ教育でも意識しており、就職活動期間は、進路の相談、履歴書・エントリーシート添削、面接指導など全般的な指導を行っていく。推薦書などの作成にも丁寧に応じたい。		0.10	ゼミ生を中心に、相談に来た学生さんも含め、就職活動期間は進路相談、履歴書・エントリーシートの添削、面接指導、内定辞退の際の配慮、内定時必要書類の作成などで、進路指導を十分に実施することができた。ゼミ生は、希望に応じ県内外企業への就職が順調に決まり、十分な指導ができたと考えている。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		戸谷 義治	所 属		法文学部 総合社会システム学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	全学共通科目として「憲法概論」、専門科目として「法学基礎演習」「基礎労働法」「展開労働法」及び「法学演習」、並びに研究大学院科目として「労働契約法特論」及び「労働者保護法特論」を担当するとともに、法科大学院と共同の「英米法研修」を実施する。		0.30	年度当初に予定した全ての科目を開講した。また、英米法研修や中国研修に関し、日本学生支援機構の短期留学支援制度に応募して、参加学生に対する給付型奨学金を獲得し、両研修における学修の充実を図った。
研究	0.30	今年度獲得した科研費(若手B)を有効に活用して「企業倒産時の労働関係法理」の研究を推進し、数回の学会報告及び研究会報告を行い、成果を論文として公表する。併せて来年度日本労働法学会大会大シンポジウムでの報告にむけた準備を進める。		0.30	科研費獲得テーマである企業倒産と労働関係について、フランスで現地調査を行ったのをはじめとして研究を進めた。成果として2回の国際学会・シンポジウムを含む5回の研究報告を行うとともに、論攷4編を公表した。それ以外に2回の研究会報告及び4編の論攷公表を行った。来年度学会報告について4回の準備会合に出席し、他の報告者と準備を進めた。
社会貢献	0.10	初等中等学校教員の免許更新講習について講師を務めるほか、必要に応じて社会貢献活動を行う。		0.15	年度当初の目標通り、初等中等学校教員の免許更新講習について講師を務めた。また、地元弁護士らと6回の研究会を開催し、参加者だけでなく本土から招聘した研究者・実務家の報告とそれに関する議論を通じて、研究者と弁護士・実務家との交流を図るとともに、大学における研究の、地域での共有に努めた。
管理運営	0.10	担当の委員の業務に従事する。		0.05	担当の委員の業務に従事した。また、労働契約法改正等に関連する大学本部のワーキンググループを引き受け継続中である。
進路指導	0.20	ゼミ所属学生の進路指導を行うとともに、特に法科大学院や公共政策大学院への進学を希望する学生に対する受験指導を行う。		0.20	ゼミ所属学生を中心に進路指導を行うとともに、法科大学院進学希望学生2名及び公共政策大学院進学希望学生1名の受験指導を行った。なお、指導した進学希望者については幸い全員が希望の大学院に進むことができた。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		樋口 一彦	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.35	学部においては「基礎国際法」、「憲法概論」、「外国書講読Ⅰ」、「応用国際法」、「法学演習Ⅰ・Ⅱ」、「法学基礎演習Ⅱ」など、大学院においては「国際平和法特論」、「国際機構法特論」などを担当する予定である。		0.35	学部においては「基礎国際法」、「憲法概論」、「外国書講読Ⅰ」、「応用国際法」、「法学演習Ⅰ・Ⅱ」、「法学基礎演習Ⅱ」、大学院においては「国際平和法特論」、「国際機構法特論」、法務研究科においては「国際法」を担当した。			
研究	0.35	国際人道法の研究を継続する。		0.35	国際人道法の研究を継続した。			
社会貢献	0.00	教育・研究・学内管理運営を行うことよって、「社会貢献」を行う。		0.00	教育・研究・学内管理運営を行うことよって、「社会貢献」を行った。			
管理運営	0.30	法学専攻副主任、学部教育委員会委員、全学URGCC委員、学部自己評価委員会委員、及び法学専攻における各種入試業務等を行う。		0.30	法学専攻副主任、学部教育委員会委員、全学URGCC委員、学部自己評価委員会委員、及び法学専攻における各種入試業務等を行った。			
進路指導	0.00	教育活動の中で、適宜、「進路指導」を行う。		0.00	教育活動の中で、適宜、「進路指導」を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		